

1 単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES2, Lesson6 My Dream

2 単元の目標

- 教師の英語での問いかけを理解しようと努力し、反応することができる。また、生徒同士での英語のやりとりに積極的に取り組むことができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 不定詞の名詞的用法を用いて、自分が将来就きたい職業ややりたいことを表現することができる。また、副詞的用法を用いて、将来その職業に就くために、今どんなことをどんな理由でやりたいかを説明することができる。(外国語表現の能力)
- 不定詞の3つの用法が使われている「将来の夢」のスピーチを読み、既習の文法事項をスピーチの中でどのように使うかを意識して読み進めることができる。(外国語理解の能力)
- 不定詞を使った文の形・意味・用法を理解し、単語や設定が変わっても自己表現ができる。
(言語や文化に対する知識・理解)

3 単元の評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化に対する知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問に対して、言葉や動作で反応している。 ・ペア活動やグループ活動の際に、相手に聞こえる声の大きさと英語を話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞を用いて、自分のことを話したり、書いていたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの内容を正しく聞き取ることができる。 ・まとまりのある英文を読み、全体の概要や内容の要点を正確に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞を用いた文の意味や構造を理解している。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と生徒

本単元は、エマと健が職業体験プログラムに参加し、その経験を踏まえて、将来の夢についてスピーチをするという内容である。レッスンの最初の扉絵には、仕事に関する絵が描かれており、生徒は、様々な職業の英語での言い方について関心を持つことができる。

文法事項としては、不定詞が扱われている。「to + 動詞の原形」の形を定着させ、3つの用法の意味の違いを区別させる必要がある。

2年組は、積極的に発言し、英語での対話活動にも明るく取り組む学級である。しかし、英単語を覚

えることが苦手な生徒や、既習の文法事項がなかなか身につけていない生徒が多い。そのため、新しい文法を導入する際には、ウォームアップで動詞の復習を取り入れたり、単語の意味を確認する場面を設けたりすることが必要である。

単元のテーマである「将来の夢」については、まだ決まっていないという生徒が半分以上いる。この単元で、様々な職業について知り、不定詞を用いて、自分が将来就きたい職業ややりたいことを英語で表現できるようになることを目標としたい。

(2) 指導の構想

この単元で身につけさせたいことと、学級の実態を踏まえ、指導の際には次の点に配慮する。

1つ目に、単語の復習である。不定詞を使って自己表現をするには、その際に使える単語を定着させる必要がある。毎回の授業の際に、ウォームアップで、生徒が言語活動で使える表現を復習する時間を設定したい。

2つ目に、[to+動詞の原形]の定着をはかることである。この学級はペアでの活動に自然に取り組めるため、対話を通して文法を身につけさせたい。名詞的用法を導入する際に、この形をしっかりと理解させることで、後に学習する用法と混乱しないようにする。

3つ目に、書く活動を取り入れることである。口頭練習の後に、発話した内容を書く場面を設定する。そうすることで、英語を書く習慣の定着をはかる。

最後に、リーディングについてである。今回のリーディングは、「意見文（スピーチ原稿）」なので、構成や表現は、生徒が自らスピーチ原稿を作成する際のモデルになる。そのため、表現や構造、言語については、丁寧に確認し、型を身につけさせたい。

5 単元の指導計画（全12時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動（・）	評価				
		関	表	理	言	評価規準
1	○自分のしたいことや好きなことについて、不定詞の名詞用法を用いた対話を通して、相手に伝えることができる。 ・ペアでの対話活動	○			○	・自分の好きなことやしたいことについて、適切な音量で相手に分かりやすくつたえようとしている。 ・文法的な正確さが認められる。
2 本時	○不定詞の副詞用法を用いた対話を通して、「～するために」と、自分の行動とその目的を説明することができる。 ・ペアでの対話活動	○			○	・自分の行動とその目的について、適切な音量で相手に分かりやすく伝えようとしている。 ・「to+動詞の原形」を正しく使い、英文を話したり書いたりすることができる。
3	○不定詞の形容詞用法を用いたクイズを通して、「～するための○○」と、相手に説明することが	○			○	・適切な音量で相手に質問している。また、質問

	できる。 ・ペアでのクイズ活動					に対して意欲的に答えている。 ・文法的な正確さが認められる。
4	○GET, Part1 の本文の内容理解 ・ practice			○		・まとまりのある英文を読んで、全体の概要や内容の要点を適切に読み取ることができている。
5	○GET, Part2 の本文の内容理解 ・ practice			○		・まとまりのある英文を読んで、全体の概要や内容の要点を適切に読み取ることができている
6 7	○USE Read 健の将来の夢のスピーチを聞いて、スピーチ原稿の構造、内容、表現を理解できる。			○		・スピーチの型や使われる表現を理解し、内容を正確に読み取ることができている。
8	○USE Write 自己紹介の手紙を書こう ○Let's Listen 留守番電話のメッセージを聞いて、英語で読まれた内容について理解できる。			○	○	・自己紹介の手紙の構造が理解できる。 ・ワークシートを使って、メモをとりながら英語を聞いている。
9	○Let's talk 電話をしよう	○	○			・電話で使われる表現を理解し、使うことができる。
10 11 12	○Project2 自分の夢を紹介しよう 「将来の夢」スピーチを書き、発表する	○	○			・スピーチの型に合わせて、自分の将来の夢について書くことができる。 ・適切な音量で堂々とスピーチができる。

6 本時の計画（2時間目 / 全12時間）

（1）本時のねらい

自分のしたいこととその理由を、スモールステップを意識した言語活動を通して、不定詞の副詞的用法を使って表現することができる。

（2）本時の構想

本時のねらいを達成するために、次の3つの手立てを用いる。

手立て① 既習事項を思い出し、本時の学習につなげるために、「私は～へ行きたい。」という自己表現を行う場を設ける。

手立て② 興味を持てるような場面設定で、かつ「どんな風に表現するのだろう」という気持ちを持たせるために、課題提示の場面で、3月の修学旅行で訪れる、東京ディズニーランドと

シーの話題を用いることにする。どちらのテーマパークに行くかというのは、今後の生徒へのアンケートの集計結果で決定する。そのため、生徒は自分がどちらに行きたいかを自分のこととして考えることができ、かつそのテーマパークを選ぶ理由を自然に考えることができる。

手立て③全ての生徒を「to+動詞の原形」の形に慣れさせるために、インフォメーションギャップのあるワークシートを用いたペア活動を行う。空欄部分の情報をペアで聞き合うため、生徒は使う単語が指定されており、「to+動詞の原形」の形に集中して練習することができる。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応 (含む学習内容)	■評価規準(観点/方法)、 ○留意点
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">導入</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ (30秒) ・声出し活動 (2分30秒) ・前時の復習 (5分) 	<p>S1: Hello, Ms . T: Hello, everyone. How are you today? S1: I'm fine. S2: I'm tired. T: Talk with your pair. S1: How are you? S2: I'm fine, thank you. And you? S1: I'm fine too, thanks.</p> <p>T: Look at the screen. Where is it? S: It's Tokyo Disney Land. T: How about this? S: It's Tokyo Disney Sea. T: Which do you want to go for school trip? S1: Tokyo Disney Land! S2: Tokyo Disney Sea! T: Ok. I have a question. How do you say 「～に行きたい」 in English? S: I want to go ○○! T: Yes, so, how do you say 「東京ディズニーランドに行きたい」 in English? Make a sentence. S: I want to go to Tokyo Disney Land. T: Very good! Let's tell your opinion to your partner. Do paper-Rock-Scissors-shoot! Winner tells your opinion to your partner. "I want to go to Tokyo Disney Sea. How about you?" ~15seconds~ Stop talking. Raise your hand if you want to go to Tokyo Disney Sea. Raise your hand if you want to go to Tokyo Disney Land. T: ○○san , why do you want to go to Disney Sea? S: . . . T: You can use Japanese. S:アトラクションがたくさんあるから。 ダッフィーのお土産が買えるから。</p>	<p>■評価規準(観点/方法)、 ○留意点</p> <p>■元気よくあいさつができてきているか。</p> <p>■友達とあいさつをしているか。</p> <p>○パワーポイントで、ディズニーランドとシーの画像を見せる</p> <p>■教師の問いに積極的に答えているか。</p> <p>手立て①前時を想起させ、本時の学習につなげる</p> <p>○ 黒板に貼る [I want to go to Tokyo Disney Land/ Sea.]</p> <p>○ほとんどがディズニーシーに手を挙げる (予想)</p> <p>○「～ために」という文にしにくい答えの場合 (「なんとなく」「楽しそうだから」など)、何人かの生徒</p>

<p>・課題提示 (8分)</p>	<p>きれいな景色を見たい T: じゃあ、「きれいな景色を見るためにディズニーシーに行きたい」って、英語でどう表現すれば良いかな? S: . . . Today's goal is...</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】「〇〇するために△△に行きたい」と理由を伝えるには、どんな表現を用いたら良いだろうか?</p> </div> <p>T: I'll show you some examples. Look at this picture. It's Maruki Bijutsukan.</p> <p>★We will go to Maruki Bijyutsukan to learn about war. 私たちは[戦争について学ぶ<u>ために</u>]丸木美術館に行きます。</p> <p>★We will ride a Shinkansen to go to Tokyo. 私たちは[東京に行く<u>ために</u>]新幹線に乗ります。</p> <p>★We will visit some companies to ask some questions. 私たちは[質問をする<u>ために</u>]企業を訪問します。</p> <p>T: What's the rule? S: 全ての文に to が使われている。 T: You're right. ここでは、to はどんな意味で使われていそうかな? Talk with your pair. ○○さん, what do you think? S: ~するために? T: そうだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】 We will go to 丸木美術館 to learn about war. 私たちは[戦争について<u>学ぶ</u><u>ために</u>]丸木美術館に行きます。</p> </div> <p>Let's practice with other examples.</p>	<p>に答えを聞き、良さそうなものを取り上げる 手立て②生徒の興味のある話題について、「どう表現したら良いのだろう」という気持ちを高めてからの課題設定 ○黒板に課題を貼る</p> <p>○ 黒板に貼る</p> <p>○ 黒板に貼る</p> <p>○ 黒板に貼る</p>
<p>展開 ・全体練習① (10分)</p>	<p>T: Look at the screen. ★I came here [to] help you. ★I want to go to the library [to] study English,. ★I want to go to Tokyo [to meet] my friends. . ★I bought eggs [to make an omelet]. ★He wants to go to Italy [to play soccer]. ★My brother [went] to Australia [to study English]. ★My sister [uses] the computer [to send an email].</p>	<p>パワーポイントを使い、10問出し、全体に「to +動詞の原形」の表現を定着させる。</p> <p>生徒は [] の部分を答える。</p>

	<p>★Ms [eats yogurt] [to] keep good health.</p> <p>★Mr [went to Tokyo] [to eat delicious food].</p> <p>★[They went shopping to buy some shoes].</p> <p>★ [We want to go to Kyoto to see kinkaku-ji.]</p>	
<p>・ペア練習② (15分)</p>	<p>T: Next let's practice with your pair. I'll give you a worksheet. You have sheet A. You have sheet B. There are some blanks in your worksheet. So get the information from your pair. I'll give you five minutes, ready go! S: お互いに聞き合う ～five minutes～ Time's up. Next, let's check the answers. ～答え合わせ～</p>	<p>手立て③ インフォメーションギャップの活動を通して、全ての生徒を「to+動詞の原形」の形に慣れさせる ○ワークシートを配る (sheet A と sheet B)</p>
<p>・縦横ななめペア (計3分)</p>	<p>T: じゃあ、授業の最初に言えなかった、「○○するためにディズニーランド/シーに行きたい」と、ペアの人に英語で伝えてみよう。</p>	
<p>終末</p> <p>・Writing (5分)</p> <p>・回収</p> <p>・あいさつ (1分)</p>	<p>T: 最後に、「私は○○するために東京ディズニーランド/シーに行きたい」と、自分が選んだテーマパークとその理由を、1文で書いてみよう。書き終わったら、自分のペアの人のことについても英語で書いてみよう。 S: ○プリントに自力で書く。 T: Time is up. Please collect the worksheet from the back. S: 後ろの生徒がプリントを集める。 T: That's all for today. S: See you Ms T: See you everyone.</p>	<p>■回収後、「to+動詞の原形」が書けているか確認。</p>

本時の評価

項目	十分満足(A)	おおむね満足 (B)
言語	<p>・「to+動詞の原形」を使って、自分の行きたい場所とその理由を書くことができる。また、友達の行きたい場所とその理由についても、既習の文法事項(三単現の s) や英単語(ride,meet)や熟語(take pictures)などを正しく用いて、「to+動詞の原形」を使って、書くことができる。</p>	<p>・「to+動詞の原形」を使って、自分の行きたい場所とその理由を書くことができる。また、友達の行きたい場所とその理由についても、既習の文法事項(三単現の s を落としている) や英単語(ride,meet)や熟語(take pictures)などにミスはあるが、「to+動詞の原形」を使って、書いている。</p>

	<p>書けているべき文（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I want to go to Tokyo Disney Sea to take pictures with Disney characters. ・ Emi wants to go to Tokyo Disney Sea to meet Mickey Mouse. 	<p>書けているべき文（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I want to go to Tokyo Disney Land to ride many attractions.
態度	<p>対話活動の際に，自分の行きたい場所とその理由を，不定詞を使って正確に相手に伝えている。その際に，適切な声の大ききさで，相手とのアイコンタクトを取りながら話をしている。</p>	<p>対話活動の際に，自分の行きたい場所とその理由を，不定詞を使って正確に相手に伝えている。</p>

7 参考文献

- ・新潟市教育委員会『若手教師のための授業づくりガイドブック』